

# 海外臨床薬学研修 報告書

研修期間：令和7年2月12日～令和7年2月21日

所属：名城大学薬学部薬学科

学年：4年

学籍番号：210973453

氏名：原みのり

## 1. 参加目的

幼い頃の海外経験や大学の講義でアメリカと日本の薬剤師の役割に興味を持ち、海外臨床薬学研修報告会への参加でこの研修に参加したいと思うようになった。また、AIに仕事が取られるといった意見や COVID-19 の際に議論に上がっていたワクチン接種の権限などが日本の薬剤師に与える影響を日本の外から俯瞰する良い機会になると考えた。

## 2. 研修内容

【研修テーマ】 アメリカと日本の医療制度や教育の違いについて学ぶ

### 【研修日程】

月日	研修内容
2月13日	イントロダクション、アメリカの薬学教育、インドからアメリカで薬剤師になるまで、薬剤師主導の服薬遵守に関する研究
2月14日	ジャマイカやサウジアラビアからアメリカの薬学部への入学、アメリカの薬剤師の役割、感染症及び HIV/AIDS と薬剤師の役割、University medical center 見学、アメリカの健康保険システム
2月17日	感染症と抗菌薬、輸液バッグ調製、薬剤師によるワクチン接種、精神科の薬剤師の役割、FPGEC 取得によるアメリカ薬剤師になる方法
2月18日	医療安全、患者・医療人・自身のメンタルヘルスケア、Pharmacy museum 見学、Poison center 見学
2月19日	CVS 薬局見学、名城生によるプレゼンテーション、微生物学、Phillip Ieng 助教授の講義、ブプレノルフィンによるオピオイド使用障害の治療

### 【研修内容詳細】

アメリカの薬学教育の講義では、調剤業務をロボットやテクニシャンに一任することで対人業務に時間と労力をかけているということが日本よりも顕著に表れているように感じた。また、アメリカでは2年の pre-pharmacy と4年の pharmD で学習する必要がある、その pharmD4 年次の42週間で自分の選択した APPE(実務実習)を回る点が日本との大きな違いの一つであると感じた。この講義で特に印象に残ったのは、アメリカと日本の薬剤師の役割には文化の違いはあれど、テクニシャンへの業務移行が鍵を握っているという話であり、今まで思い描いていた薬学教育の違いや医師の負担軽減の観点とは違うため興味深かった。薬学教育や薬剤師の職務の違いから実際に海外からアメ

リカの薬剤師になる2つの方法についてアメリカの薬学部に入學し直したインドやジャマイカ、サウジアラビアの方の話と、FPGEC 取得によりアメリカの薬剤師になった方の話を聞く機会があり、日本以外で薬剤師として働く具体的な方法を知った。

そして国民全員が健康保険に加入している日本と異なるアメリカでは、加入している保険ごとにカルテを共有していたり、保険会社が指定している薬局に処方薬を受け取ったりと薬剤師の業務を含む多くの医療において加入している保険に依存している場面が多いと感じた。この保険制度は、富裕層にとって有利な健康保険制度を採用しており、対する貧困層への対応はオバマケアによって、低所得者向けの保険プログラム Medicaid や既往歴の有無に関わらず保険に加入できること、26歳までは親の保険に加入できるようになったものの、中間層への対応がまだ不十分であることを学んだ。ワクチン接種も少なからず関係している。日本と異なる薬剤師業務として注目すべきことの一つであるが、治療ではなく予防という観点からアメリカでは薬局でワクチン接種が受けられる。見学先の CVS 薬局内にはワクチン接種のための面談室が設けられており、15種類ものワクチン接種が可能とのことであった。さらに、学生がテクニシャンとしてワクチン接種などの実技を練習する機会が多く日本でも導入を検討する価値があると感じた。また、アメリカで薬剤師によるワクチン接種の権限が与えられた背景には、健康保険制度の影響以外にも同時多発テロや生物兵器の危機もあるとされ、そういった危機感があまりない日本での薬剤師のワクチン接種の権限獲得は難しい。COVID-19の影響もあり、少しずつではあるが薬学部のワクチン接種教育が進んでいる今、アメリカで実施されていた接種を許可する証明書の獲得や地域の人との交流を深めることが権限獲得において重要であると感じた。

### 3. 感想

今回の研修の講義や病院・薬局の見学などを通して、アメリカと日本の薬剤師業務の共通点と相違点を学ぶことができた。アリゾナ大学の生徒と一緒に受けた感染症の講義と日本の薬学部の講義では、内容に大きな差はなく、患者の健康を守るという共通の目標に向けて日々学習を進めている。一方、アメリカと異なる日本の健康保険制度などの良い面は伸ばしつつ、薬剤師の対人業務の推進やワクチン接種の権限獲得などの改善点も理解することができた。こういった考えは、海外と日本の薬剤師業務の違いについての知識のみがあっても、日本で過ごすだけでは後回しにしてしまいがちだ。しかし、この研修を通じて日本とアメリカという明確な比較対象を前にして、国内で完結するのではなく広い視野で、「アメリカではこうだが、日本はどうだ。」や「日本の薬剤師はどうあるべきか。」「私にできることは何か」といったことを常に考える刺激的な日々を送ることができた。今後もこういった目線で物事を捉えることを忘れぬようにしていきたい。

最後に、アリゾナ大学海外臨床薬学研修に携わったすべての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。